

世界史B 8 封建社会の動揺と王権の進展・身分制議会

1.自然の脅威と、教皇権の衰微

14~5世紀---天候不順=寒冷化❖aと黒死病=ペストの大流行→全人口の{ }1を失う

イングランド---独立自営農民=()2の成長

窮迫した領主の重い税負担→大規模農民一揆

┌1358年()3の乱❖b フランス

└1381年()4=(?~1381)の乱❖c イギリス

→同志ジョン=ポール(~1381)「アダムが耕シイブが紡いだ時、誰が()5だったか」

❖a---太陽活動の低下、太陽黒点が減少したシュペーラー極小期(1420ころ~1570ころ)に該当。

❖b---百年戦争(1339~1453)中にフランス北東部及びパリでおきる。「ジャック」は農民を指す蔑称。

❖c---農奴制廃止。教会財産の分配を要求。国王リチャード2世との謁見中に斬られ、死亡。

→14~5世紀封建制の危機

諸侯・騎士の衰退→国王の廷臣または地方の地主化=イングランドの()6

1303年 ()7事件 フランス国王フィリップ4世(位1285~1314)

┌フランドル領有の戦費のため聖職者に()8→反対する教皇により破門(1302)

└教皇ボニファティウス8世(位1294~1303)をやはり破門されていたコロンナ家とともにローマ近郊で捕らえる

1309年 フィリップ4世 教皇庁を南フランスの()9に移す

→約70年間教皇はフランス王の支配下→「()10のバビロン捕囚」(1309~77年)

1378年 ローマとアヴィニョン→両教皇がともに正統を主張→教会大分裂=()11=(1378~1417)

2.教会改革の運動

イングランド ウィリアム=()12❖d(1290?~1349?)

・教皇権力を否定 ・信仰と理性の分離を主張→理性が信仰から独立していく

❖d---オッカム村出身。フランシチェスコ会士。スコラ哲学で「唯名論」。異端審問を受ける。

ジョン=()13❖e(1320?~84)、ベーメンのヤン=()14❖f(1370?~1415)

聖書にもとづいて教会の制度や教義を批判→のちの宗教改革の先駆者

❖e---オックスフォード大学教授。[]15を英訳。聖書と説教を重視しローマ教会を批判。

序文「この聖書は人民の、人民による、()16のための統治に資するものである」

❖f---ボヘミア出身。1402年プラハ・カレル大学(1348年創立)学長。ウィクリフの影響のもと、贖宥状に反対。

「教会の名の下で剣を挙げる権利は教皇にも司教にもなく、敵のために祈れ」と主張。

()17公会議(1414~18) 神聖ローマ皇帝ジギスムントの提唱で

┌ウィクリフを異端とし、全著書の焚書を決め(遺体も焼却)、フスを処刑(1415)

└教会大分裂を收拾して体制の立て直しをはかる

教皇マルティヌス5世(位1417~31)「ボヘミアの異端を撲滅するため」()18軍を派遣。

フス派を中心とするプラハ市民→長く抵抗を続けた⇒「()19戦争(1419~36)❖g」

1420年から31年に計五回、十万の大軍→失敗。1436年バーゼル宗教会議で和解。

❖g---指導者ヤン=ジシュカ(1374~1424)。初めて使用された[]銃などにより十字軍は大敗。

3.イングランドの国王と議会

イングランド ()20朝(1066~1154)=征服王朝→王権が比較的強い。

()21朝(1154~1309)=紋章「エニシダの木」 ()22西部にも多くの領土

┌フランスのアンジュー伯がイングランド王ヘンリ2世(位1154~89)として開く

└行政制度の整備→中央集権化がさらにすすむ

国王()23(位1199~1216)→フィリップ2世と争いフランス内の領土の多くを失う

1215年 カンタベリー大主教の叙任問題で教皇インノケンティウス3世(位1198~1216)と対立し破門

┌王はイギリス全土をいったん教皇にささげ、改めて授封→破門解かれる。

└財政に窮して重税→貴族たちは都市とむすんで国王に対して内乱

貴族の要求を受け同年()24=マグナ・カルタ=を公布。63箇条。

→都市のギルドや貴族の権利を保障。 「正当な会議の決定や法によらなければ課税も()25もされない」

ジョンの子ヘンリ3世(位1216~72) 大憲章をたびたび無視

1258年 貴族の指導者シモン=ド=モンフォール(1208?~65)→兵を率いて王をとらえ、定期的な議会招集を確認

1265年 「マグナ・カルタ」を正式に承認させ、以前からの聖職者と貴族の会議に

州を代表する()26と都市を代表する()27とを出席させる

⇒イングランド()28の起源

1295年 エドワード1世(位1272~1307)のもとでの議会

聖職者、貴族、州の騎士、都市市民それぞれの代表者を集める

→のちに()29議会=Model Parliamentとよばれた。

貴族の下の州の騎士→軍事的性格を失う→地方の()30=州自治の担い手

14世紀なかば イングランド独自の二院制が成立→やがて議会の立法権も確立

┌高級聖職者と大貴族---貴族院=House of Lords (上院)

└ジェントリと市民---()31院=House of Commons (下院)

4.フランス王権の伸長

フランス→封建諸侯の力が強い 10世紀にカペー朝(~1328)=王権は微弱

12世紀末から王権がしだいに伸長

フィリップ2世(位1180~1223) イングランド王ジョンと争う

→フランス内のイングランド領の大半を奪う

インノケンティウス3世の()32十字軍(1209~29)→アルビジョワ派(カタリ派)

┌善悪二元論の「異端」。聖職者の墮落を批判する民衆運動。南仏のアルビ中心。「カタロス=(清浄)」

└トゥルーズ伯ら南フランスの諸侯とむすんで大きな勢力。1229年平定後()33審問❖h開始。

ルイ9世(位1226~70)が平定→トゥルーズ伯は王へ服従。王権の影響力を南フランスに拡大。

❖h---カタリ派と認定され改宗を拒むと火刑にした。のち1542年ローマに「異端審問所」設置。

1302年 フィリップ4世(位1285~1314)→ローマ教皇との争いにさいして→()34招集

聖職者・貴族・平民の代表を集め、その支持により国内の統一を推進

諸国の国王→国内の統一をすすめる→さまざまな身分の代表者との間に協定をむすぶ必要

()35制議会=三部会など=が各国でうまれる



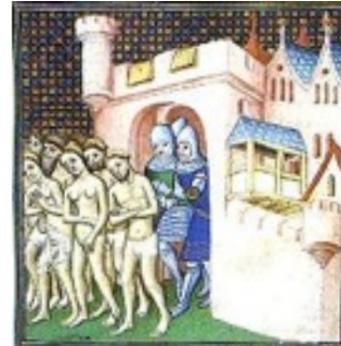
オッカム



ウィクリフ



フス



アルビジョワ派の弾圧

・フス(2) ・十字 ・議会 ・身分 ・人民 ・市民 ・庶民 ・騎士 ・逮捕 ・課税 ・異端 ・模範 ・領主
・大憲章 ・三部会 ・三分の一 ・ジョン ・シスマ ・フランス ・ノルマン ・アナーニ ・オッカム
・ヨーマン ・ウィクリフ ・ジェントリ(2) ・アヴィニョン ・コンスタンツ ・アルビジョワ ・ジャックリー
・プランタジネット ・ワット=タイラー